

令和5年度 特別養護老人ホームいいたてホーム事業報告

1. 基本方針について

- (1) 家庭の延長と感じられる「居心地の良い」環境づくりとケアを目指し、ハード面では入居者に合わせ居室や共通スペースの配置換え・空調管理を行い、ソフト面では、起床・就寝・食事・入浴時間を個々の生活スタイルに合わせたケアを実施してきました。
- (2) 入居者のニーズを発掘するため、多職種間との連携で定期的なケア会議を開催、ケアの見直しを行ってきました。また、サービスの「質の向上」のため、日々の業務を入居者優先となるよう改善してきました。
- (3) 新人職員が、スムーズに業務に就ける環境と専門知識や技術習得のための研修を実施。更に、認知症ケアはチームケアが重要であることから、職員間で相談し易い環境づくりに努めてきました。また、web研修参加のほか、集合型の職員会議を再開。
- (4) 今年度は、自然災害や新型コロナ感染に伴う、BCP（事業継続計画）のマニュアルを見直し、また、災害時に入居者はもちろん職員の安全も確保できるよう、勉強会や訓練を重ねてきました。
- (5) 面会においては、入居者の安全を第一に考え、ご家族の方の協力も得ながら、対面での面会を開始しました。ご家族等からは「もっと自由な面会を」との希望もありますが、当施設でクラスターが発生した場合、職員の確保が最大の問題であり、更に医療の問題や応援職員の確保ができないことから、今できる範囲で精一杯行ってきました。
- (6) 職員募集に際しては、インスタやホームページ、季刊誌の発行等、幅広い方々に当施設を知って頂く取り組みを行ってきました。

2. 入退居状況・在居期間等

【月別入退居状況】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入居者数	2	1	1	2	0	0	0	1	2	1	1	1	12
退居者数	1	1	0	0	0	1	1	1	2	0	2	1	10
月末在居者数	46	46	47	49	49	48	47	47	47	48	47	47	

【在居期間】

	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	計
男性	3人	3人	0人	0人	0人	6人
女性	9人	19人	11人	2人	0人	41人
合計	12人	22人	11人	2人	0人	47人
比率	25.5%	46.8%	23.4%	4.3%	0%	100%

【介護度区分状況（年齢別）】

（平均89.6歳 最高齢者 103歳 最小入居者 63歳）

		64歳 未満	65～ 69歳	70～ 74歳	75～ 79歳	80～ 84歳	85～ 89歳	90～ 94歳	95～ 99歳	100 歳～	計
男性	介護3	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	介護4	1人	0人	0人	0人	2人	2人	0人	0人	0人	5人
	介護5	0人	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	0人	1人
	計	1人	0人	0人	1人	2人	2人	0人	0人	0人	6人
介護度平均		4.0	0	0	5.0	4.0	4.0	0	0	0	4.2
女性	介護3	0人	0人	0人	0人	2人	4人	6人	0人	2人	14人
	介護4	0人	0人	0人	0人	1人	3人	8人	1人	0人	13人
	介護5	0人	1人	0人	0人	0人	2人	7人	4人	0人	14人
	計	0人	1人	0人	0人	3人	9人	21人	5人	2人	41人
介護度平均		0	5.0	0	0	3.3	3.8	4.1	4.8	3.0	4.0
全体合計		1人	1人	0人	1人	5人	11人	21人	5人	2人	47人
全体介護度平均		4.0	5	0	5.0	3.6	3.8	4.1	4.8	3.0	4.0

3. 具体的な取り組み

(1) 生活・環境面の充実及びサービスの質の向上

- ① 安心して落ち着ける空間（居室やフロア等）や居場所づくりに努め、個々に合わせた設えを工夫してきました。
- ② 整理整頓・清潔を基に、消臭対策や共用部の清掃・除菌に努め、心地良い日常生活と、一人ひとりの生活習慣、意向の尊重、自ら選択できるような環境づくりをしてきました。

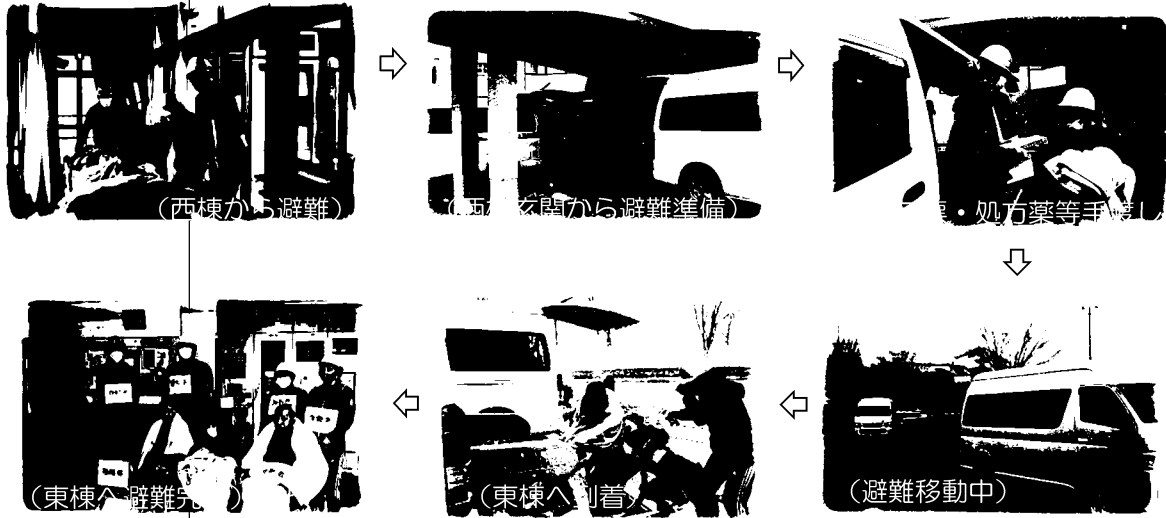
取組	具体的な内容
1. 居心地の良い環境づくり	<p>1-1 外出や交流制限の中でも、生活の中に居心地の良さが感じられる環境づくりに努めてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の居場所づくり 各家で寛げる場所と食事の場所を入居者に合わせてきました。 ・ 節電等に努めながらも過ごし易い環境づくり エアコン、床暖房、加湿器で室温や湿度の調整。 ・ 臭いのない施設づくり 排泄物を新聞紙で包む処理。また、換気や空気清浄機の活用と、口腔ケアの徹底で居室内の空間消臭ができた。 ・ 寝心地の良いベッド環境づくり 寝具を工夫、夏はクールシート・冬はボアシートを使用。また、就寝前の電気毛布や湯たんぽで眠りにつける寝床づくりを実施。 ・ 感染予防対策 職員の出勤時、検温・手洗い・うがい・手指消毒・マスクの着用。また、手すり等の消毒掃除等を徹底してきました。
2. 生活リズムの継続	<p>2-1 生活習慣と意向を尊重し、就寝や起床時間、食事・入浴・排泄ケアを個別毎に対応してきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 食事：食べられるタイミングに合わせ食事提供に努めてきました。特に行事食は、目で楽しみ味わい満足して頂けたと思います。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食事介助者が増えたものの、安全に食事が摂れるよう十分な時間配分をしてきました。 ② 排泄：パターンの把握と排泄用品の選定を行ってきました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水分摂取と排泄の形状や下剤の調整で、スムーズな排泄環境を整えることが出来たと思います。 ・ 意向の尊重と快適な排泄の取り組みについては、入居者の体型等により1人での移乗介助が困難な時、福祉機器の活用を試みたが上手く行かず、結果、介護職員2人で持ち上げての介助となっている。しかし、将来の介護を踏まえ新たな福祉機器の活用を試みたい。 ③ 入浴：体調に合わせた入浴形態と環境を整え、気持ちの良い入浴をできるようにした。（ユニット内にある家族風呂、リフト浴、チェアインバス等を使用） <ul style="list-style-type: none"> ・ お風呂の日を設け、ゆず湯や菖蒲湯等を提供、香りも十分に楽しんで頂けたかと思います。 ・ 体格や皮膚の弱さを考慮し、前向きにリフト浴に取り組んできました。現在も2人の入居者に対応。
3. 家庭的な雰囲気づくり	<p>3-1 積極的に入居者とのコミュニケーションを図ってきました。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 誕生日祝いの継続と家族へのお便り <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者の誕生月に家族へ連絡。繋がりを大切にすると共に、当日

<p>4. 社会とのつながり</p>	<p>は厨房職員手作りのケーキでお祝いをしてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族へのお便りは年3回。手紙と写真送付し近況を報告。 <p>② 食卓を囲み一緒に食事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策のため、入居者と一緒に食事を摂ることは難しくなったものの、会話などで食事を楽しめる雰囲気づくりに努めてきました。 <p>③ 家族等との面会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リモート面会、若しくはガラス越しの面会でしたが、最低限の条件により対面の面会を実施してきました。 <p>【入居者への面会回数】</p> <table border="1" data-bbox="459 555 1388 645"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>0</th> <th>1~2</th> <th>3~4</th> <th>5~6</th> <th>7~8</th> <th>9~10</th> <th>11~12</th> <th>13以上</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入居者</td> <td>6人</td> <td>8人</td> <td>2人</td> <td>11人</td> <td>7人</td> <td>3人</td> <td>4人</td> <td>6人</td> <td>47人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(最多回数は34回の面会がありました)。</p> <p>④ 施設内でも季節を感じられるような工夫をしてきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 畑作り。(収穫時期には入居者も加わり、楽しく調理)その他、だんごさし・柏餅作り・ワラビ作り・フキの皮むき等も行ってきました。 <p>4-1 外出支援等は、間接的ではあるが少しずつ機会を増やしてきました。</p> <p>① 認定こども園や、までい学園、ボランティアとの交流計画等については、コロナ禍により行えませんでした。そうした中でも、花見の時期に村内ドライブ等に出掛けました。</p> <p>② 夏祭り、運動会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で縮小していた夏祭りを西棟玄関前で開催。地元の方々の協力で櫓を組み立てて頂き、また、入居者や職員も浴衣に着替え、盆踊りや模擬店を楽しみました。 	回数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13以上	計	入居者	6人	8人	2人	11人	7人	3人	4人	6人	47人
回数	0	1~2	3~4	5~6	7~8	9~10	11~12	13以上	計												
入居者	6人	8人	2人	11人	7人	3人	4人	6人	47人												
<p>5. 重度化ケア</p>	<p>1-1 その人らしい最期を迎えられるよう、入居者やご家族の方の意向を踏まえ支援してきました。(看取り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 残された時間への支援に対し、入居者やご家族の意向に少しでも沿うことができるよう、職員との情報交換を適宜行ってきました。 ・ 最期まで口から食べられる思いを大切に、一口でも好きな物を食べて頂くことができました。 ・ 入浴については、重度化であっても看護師の協力を得、可能な限り行ってきました。 ・ 口腔ケアでは、口腔内の洗浄や喀痰除去等の清潔保持で二次的感染を防いできました。 ・ 寝具は肌触りの良い軽い物とし、好きな音楽をかけ、温かく見守ることができました。 ・ 面会に制限がある中でも、外庭から直接居室に入室し、少しでも家族との時間を過ごして頂けるよう配慮してきました。 																				

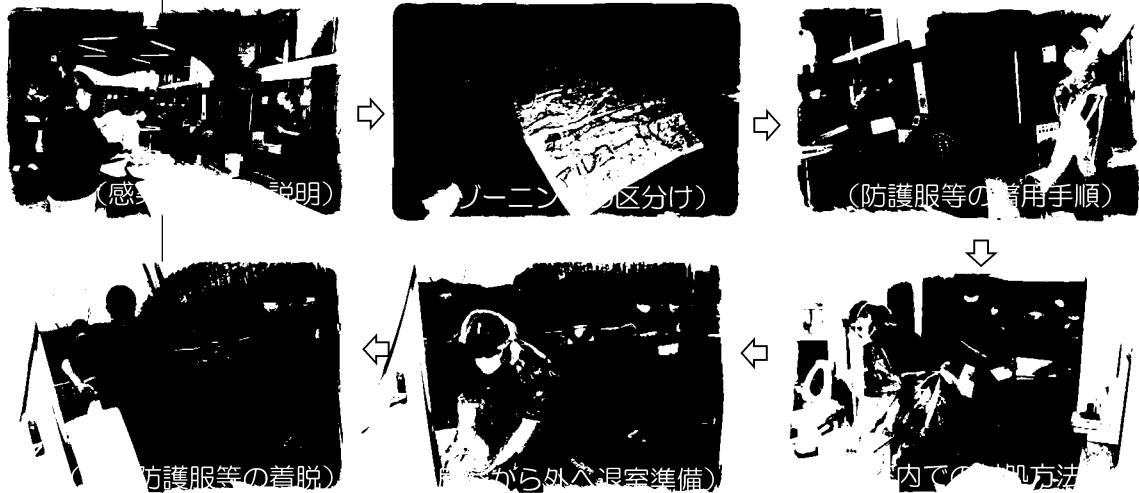
(2) 人材育成

取組	具体的内容
<p>1. 職員育成</p> <p>2. 会議、委員会の充実</p>	<p>1-1 コロナ禍であり、オンライン研修が主となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症研修（参加者：1人） ・ ユニットリーダー研修（参加者：1人）、実地研修（参加者：2人） ・ 施設ケアマネ研修（参加者：1人） ・ 介護職員中堅者研修（参加者：1人） ・ ICT導入研修（参加者：1人） ・ 災害時事業継続研修（参加者：3人） ・ 高齢者虐待防止研修（参加者：1人） <p>2-1 職員が各委員会に所属し専門的知識を習得、専門及び具体的なケアに取り組めるよう、委員が中心となり改善や向上に繋げてきました。</p> <p>ア) 事故防止対策及び感染防止委員会（年5回開催）</p> <p>イ) ケア向上（褥瘡防止対策含む）委員会（年4回開催）</p> <p>ウ) 設備・環境委員会（年4回開催）</p> <p>エ) 身体拘束・虐待防止委員会（月1回開催）</p> <p>オ) 広報・行事委員会（年6回開催）</p> <p>カ) 安全管理対策委員会（年5回開催）</p> <p>2-2 会議の充実</p> <p>ア) 家長会議の充実（月1回開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リーダーとしての自覚を持ち、職員育成にも取り組めるよう意識を高めてきました。（各家の動向や情報の共有化にも努めてきました。） <p>イ) 職員会議の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全職員が一同に会し、施設内研修を行ってきました。 <p>ウ) 家内ケア会議（月1回）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者のケアの見直しを看護師、栄養士、調理職員、介護職員が意見を出し合って検討してきました。
<p>3. ケアマネージャーとの連携</p> <p>4. 安全性と危機管理</p>	<p>3-1 ケアマネージャーとの情報提供を適宜行ってきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービス記録を共有しサービス計画に反映。 ・ 介護職員でもケアプランが理解できるようケア会議等で説明。 <p>4-1 事故を未然に防ぐための会議や研修、訓練等を実施。</p> <p>施設内職員研修の実施</p> <p>ア) 身体拘束ゼロの取り組み</p> <p>身体拘束・虐待防止勉強会（5月、8月、11月、1月開催）</p> <p>イ) 人権擁護（認知症ケア）（7月、8月、2月開催）</p> <p>ウ) リスクマネジメント（11月、3月開催）</p> <p>エ) 新型コロナウイルス感染防止対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出勤時の検温、手指消毒、うがい、マスク着用の徹底。 ・ 機器導入により空間除菌や空気清浄。テーブルや手すりの除菌。 ・ 感染症マニュアルの見直し。 ・ 感染発生に備え勉強会の開催等。 <p>オ) 避難訓練</p> <p>火災想定訓練（月1回実施）（自然・原発災害訓練含む）</p> <p>カ) 災害時の対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全管理担当者や設備環境委員会で、施設内の環境・設備・福祉用具等の点検及び補修を行ってきました。 ・ 防災マニュアルの見直し。

キ) 事業継続計画 (BCP) の見直し等 (9月、1月)
自然災害時等の訓練 年2回 (9月、3月)






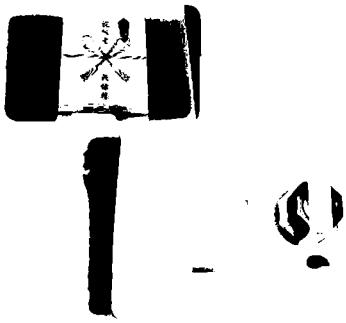

感染症発生時等の訓練 年2回 (7月、2月)



(3) 施設運営

1. 介護報酬の理解	1-1 LIFE を活用したPDCAサイクルの勉強会を開催 ・ 栄養マネジメント、褥瘡マネジメント、排泄支援加算等に係る内容の点検と書類の整備。
2. 入居者を迎える	2-1 個々にあった居室の提供と福祉用具等を選定 ・ 入居前に居室や車いす、自助具について家族の方に説明。
3. 節電への取り組み	3-1 電気料金及び燃料等の高騰に伴う節電 ・ 電気、燃料の節約 床暖房の適度な温度調整とホールエアコンの使用を抑える。 (室温：夏 27～28℃、冬 22～23℃、湿度：通年45%以上) ・ ガス、電気の節約。 洗濯物の自然乾燥に取り組む。(乾燥機の使用頻度を抑える) ・ 電気の節約。 家電や照明等のこまめな消灯

3. 主な年間行事開催

月	内 容	月	内 容
4月	家族会総会、花見交流会(中止)	10月	ドライブ(中止)
5月	花見ドライブ(村内)	11月	芋煮会、ミニ運動会
6月	ドライブ	12月	クリスマス会(各家内)、餅つき
7月	七夕会 (飾りつけ ・各家内)		
8月	ホーム夏祭り(屋外で開催)	1月	新年会
			
9月	敬老会(各家内)	2月	節分、豆まき
			
		3月	ひなまつり(行事食)

1. 家目標と方針について

- (1) 入居者一人ひとりに対する居場所づくりとして、炬燵の設置や個別のチェアを準備することで、入居者間のトラブルの予防や解消に努めることができ、落ち着いて過ごして頂けた。
- (2) 日々、状態の変化に伴い対応方法も変わることで、苦労することもありましたが、多職種間との連携を密にすることで、一丸となって取り組むことが出来ました。また、職員間での情報共有は、些細なことでも申し送り簿に記入することで、特に問題に発展することはなかった。
- (3) ホームで最高齢者（107歳）の方がお亡くなりになりました。普段からの体調変化や、些細な変化にも気を配り、多職種間と連携し、その人らしい最期が迎えられるようお手伝いをしてきましたが、十分にしていれば良かったかと自問自答する日々でもありました。

2. 入居者状況（R6.3.31 現在）

① 人数


入居者数	8人	最高齢者	94歳	平均年齢	90歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	4人	1人	3.8

③ 認知については、軽度1人、中度～重度7人

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 入居者と一緒に行うレクリエーションは、午前には排便コントロールと経管栄養の対応に追われ、ほぼ行うことができなく工夫が必要だった。</p> <p>② トラブル回避も兼ね炬燵を1台増やすことで、好きな洗濯たみ等に集中することができ、落ち着いて過ごせる環境づくりができた。</p> <p>③ 中庭と外の畑に夏野菜を植え、一緒に手入れを行い、共に調理ができたことは何よりの収穫です。</p> <p>④ それぞれの生活歴や環境の違いなどを共有することで、いい信頼関係の構築に繋がった。</p> <p>⑤ 2名の押し車利用者については、生活リハビリを兼ね自分のペースで歩行が維持できるよう、常に付き添い見守ってきました。また、仙骨部に褥瘡ができ易い2名の方については、円座とムートンを使うことで未然に防ぐことができた。</p> <p>⑥ 面会状況 延べ人数：113人（面会最多者13回）</p>	
-------	--	---

(2)食事	<p>① 嚥下機能に合わせゼリー食や栄養補助食を選定。飲み込みも確認することで、安全と栄養管理に努めてきました。ただ、誤嚥性肺炎を引き起こしてしまった事例もあり、介助側にも気持ちにゆとりを持つことが大事だと痛感した。</p> <p>② テーブルに季節の花を飾り、気分良く食事が出るよう努めてきた。</p> <p>③ 食前体操は、早番と遅番で協力し行ってきた。</p> <p>④ 食事形態状況 常食1人、軟食2人、キザミ食1人、経管栄養者4人 食事介助者 一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 看取りについては、状態に合わせて2人対応で、最期まで安全・安楽に入浴して頂くことが出来たと思います。</p> <p>② 季節にあった菖蒲湯やゆず湯、また、ご当地の温泉の湯花を使うことで、季節感を味わい、温泉に入った気分楽しんで頂けたと思います。</p> <p>③ 入浴時には、全身の観察を行うことはもちろんのこと、トラブルを発見した時は、看護師に報告し治療に努めてきた。また、入浴後に個々に合ったローションを使用しスキンケアに努めてきた。 年間入浴者数（延べ回数：個別浴341回、機械浴316回） 個別浴2人対応での入浴者：2人</p>
(4)排泄	<p>① 排泄チェック表を活用し、尿量や排便の形状・量、また、個々の排便間隔を把握することで体調管理に努めてきた。</p> <p>② 個々に合ったパットやオムツの選定、排泄間隔等を把握し、トイレ介助を行ってきた。</p> <p>③ 排泄後の消臭対策は、こまめに換気を行い、消臭剤も活用してきた。</p> <p>④ オムツを使用されている方でも、職員2人対応で便座に座って頂き、トイレで排便を促すことで、スッキリとした爽快感を感じて頂けたと思います。</p> <p>⑤ 排泄介助内訳 トイレ介助者：2人（一人当たり1日平均7回～8回） オムツ交換者：4人（一人当たり1日平均5回～6回） （オムツ交換者のうち、2人対応でトイレ介助を行う方2人）</p>
(5)認知症ケア	<p>① 些細な情報でも申し送り簿に記し、情報を共有することで、入居者を理解でき、前向きな姿勢でケアに取り組むことが出来た。</p> <p>② 居室で過ごされる方も含め、孤独感を味わうことがないように、テレビやラジカセを活用し、目や耳からの刺激を大切にしてきました。また、フロアで過ごされる方においては、リラックスできるリクライニングの椅子で寛いで頂きました。</p> <p>③ 人のお世話をさせて頂く難しさを改めて学ばせて頂いています。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 入居者との信頼関係を築きながら、一人ひとりの生活が充実したものになるよう家庭的な雰囲気の家づくりを目指してきた。
(一人ひとりに合った声掛けや会話を多く行い、寂しい思いをしないように取り組んできた。)
- (2) 皮膚が弱く、皮下出血等の皮膚トラブルが起きやすい方のケアは、必ず2人対応で体位交換や排泄交換、入浴時には3人介助で細心の注意を払い、職員一丸となり皮膚保護に取り組んでいました。
- (3) 多職種間との情報共有や、職員間での意見交換が出来ていないこともありましたが、今後、意見交換を活発に行い、少しでもケアに反映できるようにしていきたい。
- (4) 生活の場を住み心地の良い環境に保てるよう、整理整頓、掃除や換気、空調管理に努めてきた。



2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	6人	最高齢者	94歳	平均年齢	85歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	2人	1人	3.6

③ 認知については、軽度が2人、中度～重度4人。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 全体でレクがあまり出来ない中、フロアでも楽しめるビデオ鑑賞や趣味活動ができるよう環境づくりを行ってきた。 ② ベッド上で過ごされている方には多く足を運び、声を掛け、居室環境を整えるなど寂しい思いをしないようにしてきた。 ③ 体調管理に努め、冬季は手や足を暖かく保ち上着を羽織らせてきた。 ④ 足の浮腫みのある方が多いため、マッサージ機の活用やベッド上での安楽な体位保持に努め浮腫み防止に繋げてきた。 ⑤ センサーマットについては、毎回、必要性を検討してきた。 ⑥ 感染対策では、排泄介助後、手洗い・手指消毒を徹底。また、テーブルの消毒も毎回行ってきた。 ⑦ 面会状況 延べ人数：45人（面会最多者12回）
-------	--

(2)食事	<p>① 食事姿勢を整え、また、床に足をつけ（踏み台の活用等）座位保持の徹底、安定した姿勢でしっかりと食べられるようにしてきた。</p> <p>② 個々に合った自助具や滑り止めを選定、食べやすい環境づくりをしてきた。</p> <p>③ 適宜、食事形態を見直し食べやすい食の提供と誤嚥防止に努めてきた。</p> <p>④ 食前体操（パタカラ体操）に力を入れ、飲み込みや咀嚼がスムーズに行えるよう促してきた。</p> <p>⑤ 食後の口腔ケアをしっかりと行い、嚥下機能の維持に努めてきた。</p> <p>⑥ 食事形態状況 軟食3人、キザミ食1人、ソフト食1人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助2人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 保湿剤や入浴剤、入居者に合ったシャンプーを使用することで、スキントラブルを未然に防いできた。</p> <p>② 職員が焦らず、ゆっくりとした入浴時間の提供を行い、好きな音楽や会話をしながら入浴を促してきた。</p> <p>③ 入浴の際、不穏な様子が窺えたときは、本人の好きなことを促し気分よく入浴して頂けるように努めてきた。</p> <p>④ 皮膚トラブル（内出血）を起こさないよう、状況により慎重に2人介助で対応することができた。</p> <p>⑤ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴458回、機械浴262回）</p>
(4)排泄	<p>① 尿量と皮膚に合ったパットを選定することで、皮膚トラブルや褥瘡防止に力を入れてきた。</p> <p>② プライバシーの配慮では、排泄交換と気付かれないよう消臭対策（おむつを新聞紙で包み、消臭スプレーをする等）を行ってきた。</p> <p>③ 皮膚の状態を常に確認し把握を怠らないよう努めてきた。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ介助者：5人、オムツ交換者：1人、 オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数：1人</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 個性を生かしながら、ケアの公平性と個別性について考え、一人ひとりに向き合うことに力を入れてきた。また、少しの時間でも寄り添えるよう、同じ目線に立ち、言葉を選びながら会話をしてきたことで笑顔が多く見られるようになってきました。
- (2) 職員間の情報共有に努め、ノートや口頭で申し送りを行ってきたが、言葉の表現によって、受け取り方も違うことに気付き、伝えることの難しさを感じた。それでも、当日気付いたことや、変化をその場限りにしないよう話し合ってきました。
- (3) 認知症状のある方のケアは、日々変化することに戸惑いながらも、多職種間で相談、情報を共有し、個々に合わせた時間や内容で対応できるよう取り組んできました。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 要介護度と内訳


入居者数	9人	最高齢者	103歳	平均年齢	88歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	1人	4人	4人	4.3

③ 認知については、軽度が5人、中度～重度4人。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 一人ひとりの生活パターンを把握、個々に合わせた起床や臥床時間を概ね対応できていました。(一人ひとりに寄り添う時間を多くとれば、もっと知ることができ、望むような過ごし方ができたのではないかとと思います。) ② 家料理は頻繁に行えなかったものの、野菜を育て、一緒に収穫や調理することで、美味しく味わうことができました。 ③ お手伝いができる方の役割として、洗濯たたみや金魚のお世話を毎日して頂くことで、生きがいと健康維持にも繋がっていたと思います。 ④ メドマーやマッサージなど日課とし、穏やかに生活して頂くことができました。 ⑤ 職員も一緒にラジオ体操を行うことで、コミュニケーションがとれ、1日笑顔で過ごして頂けることができました。また、天気の良い日に日向ぼっこをすることで気分転換にもなったと思います。 ⑥ 久しぶりの夏祭りで、普段とは違う表情を見ることができ、とても楽しんでいました。次年度も開催できればと思います。 ⑦ 面会状況 延べ人数：114人 (面会回数 34回) 	
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 入居者の体調により食事内容や摂取状況を確認し、変化があった際、見直しや検討を適宜行うことで、食事を美味しく頂けたことと思います。 ② 嚥下状態の変化や経口摂取が難しくなった時、口から「食べたい」との思い 	

	<p>と、安全性を踏まえ「どうしたら食べられるか」等、多職種間と連携を図ってきた。一口でも食べられた時は、満足感を味わって頂けたかなと思います。</p> <p>③ 目の前でメニューを説明、盛り付けをすることにより、目で楽しむ、食欲増進に繋げることができたと思います。</p> <p>④ 食前体操を個々に合わせ行うことで、無理なく経口摂取することができたと思います。</p> <p>⑤ 食事形態状況 常食1人、軟食4人、キザミ食1人、ペースト食1人、ゼリー食1人、経管栄養1人 食事介助者 全介助1人、一部介助1人</p>
(3)入浴	<p>① 季節毎に入浴剤を使用し、本人に合った湯温で対応してきたことで、楽しんで入浴ができたと思います。</p> <p>② 時間に追われることなく、個々に合った時間で入浴をして頂きました。また、特浴から個浴へ変更した方の対応は、2人介助で行うことにより、ゆったりと入浴をして頂けたことと思います。</p> <p>③ 乾燥性皮膚トラブルの原因を看護師と共に考え、連携し対応してきました。また、保湿クリームだけでなく、今後は保湿性の高い入浴剤を使用するなど入浴環境も整えられるようにして行きたいと思います。</p> <p>④ 入浴技術のスキルアップを図る場を設け、様々な入浴方法を考えられるよう努めて行きます。</p> <p>⑤ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴345回、機械浴515回） 機械浴から個浴へ変更：2人</p>
(4)排泄	<p>① 個々に合った尿量チェック等を細目に行い、排泄用品を選定して行くことで、快適に過ごされています。</p> <p>② パットの当て方で異なる対応を要する場合、言葉だけでなく連絡シートや排泄シートを確認するよう周知徹底して行きます。</p> <p>③ 自力でトイレに行ける方には、応援できる声掛けをし、見守りを徹底することで、転倒防止に繋がってきました。</p> <p>④ パット交換を要する方に、トイレ誘導（排便時のみ）を試みたところ、「トイレに座れて良かった。まだできるんだな」との声を聴き、表情も明るくなった様子を見て、改めてトイレでの排泄の大切さを実感することができました。</p> <p>⑤ 排泄介助内訳 トイレ介助者：6人、オムツ交換者：3人 オムツ交換（排便時のみ）からトイレ介助へ移行人数：1人</p>
(5)認知症ケア	<p>① 行動や言動の意味を理解し、発する言葉に否定せず、受け入れる対応をしてきました。</p> <p>② 個々の生活パターン、リズムを把握し一人ひとりにとってのベストなケアを考え、寄り添うことで信頼関係も築け、家族のように過ごすことができたと思います。</p> <p>③ 時間に追われる時もありましたが、職員同士が連携し、入居者に向き合うことで、落ち着きを保ち安心して過ごすことができていたと思います。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) 問題点や課題が出た時は、改善策を出し合い、チーム一丸となって取り組んできた。困った時はフォローし合い、不安な時は励まし合えるチームを作っていきたい。
- (2) 入居者の想い(声)を理解しようと努め、声に出せない方には、観察力と洞察力をもって代弁できるような介護職員を目指してきた。
- (3) 認知症の進行、体調の変化等により、今までの意思疎通や介助方法が難しくなった際も、職員一人ひとりが入居者に合わせたケアに心掛けてきた。
- (4) 職員が気づく力を更に身につけ、知識を深めるとともに、小さな変化にも早期対応できるように、家内会議やケア会議での情報共有をしていきたい。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	8人	最高齢者	93歳	平均年齢	90歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	3人	1人	4人	4.1

③ 認知については、軽度(自立度Ⅱ)2人、中度～重度(自立度Ⅲ)6人

3. 具体的内容

(1)生活	<p>① 花の手入れ、洗濯物たたみ、漬物作りなどユニット内で入居者が役割を持って生活することで、生きがいや楽しみに繋げることが出来た。</p> <p>② 業務に追われることを理由に、レクリエーションや日々の日課を行うことが出来ないこともあった。しかし、スキマ時間を上手に活用して、少しでも多く入居者に関わることができた。笑顔を引き出すコツも上手くなったように思える。</p> <p>③ 3人の入居者の看取りケアに携わることが出来た。長い間、寝たきり状態が続き、コミュニケーションが取れない方にどのように寄り添い最期までその人らしく居られるのか、考えながらのケアでした。また、コロナ禍にありながらも、家族が何度も面会に足を運んで下さり、残された時間を誰とどのように過ごすのか、私たち職員もそれぞれに考えたものです。</p> <p>④ 「家に帰りたい」と思う入居者に対するケアには、最も時間を割いたと思います。それは誰もが望んでいる気持ちだと思います。思い通りにならない時、どのように気持ちに寄り添っていいのか考えました。家族との繋がりの中で定期的に面会や外出をしたり、職員が聞き役になり気持ちを言葉や手紙にしてもらったり、思いを否定せず受け止めることに努めました。どんな形でも、いつか願いを叶えられるように「帰りたい」という気持ちに寄り添って過ごしていけたらと思いました。</p> <p>⑤ 面会状況 延べ人数：68人(面会最多者13回)</p>
-------	--

<p>(2)食事</p>	<p>① 食前体操の声出しを積極的に行い、機能訓練の意識を持って取り組めた。</p> <p>② 食べたくないという方への食事介助と声掛けに難しさを感じた。また、食べられる時に自分で食べられるよう声掛けしながら無理せず行うように努めた。</p> <p>③ 畑で野菜作りを行い、ユニットで漬物や簡単な調理をして入居者と収穫を喜び、食べることが出来た。</p> <p>④ なるべく自分で食べるように声掛けし、食欲が出るよう見た目や匂いなど五感を刺激しながら、食事を楽しんでもらえるように心掛けた。</p> <p>⑤ 食事形態状況 常食2人、軟食3人、キザミ食2人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助1人、一部介助2人、経管栄養者2人</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① 入居者の好きな音楽とお湯の温度で、ゆっくりと入浴してもらえる環境をつくりました。</p> <p>② 関節拘縮が強い方の洗身時には、洗身タオルを手袋タイプに変える等、痛みの軽減に努めながら清潔にすることができた。</p> <p>③ 体調不良時などでも、手浴足浴、清拭等で清潔を保てるように努めた。</p> <p>④ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴270回、機械浴430回）</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① 入居者の体調を把握することで、看護師の協力もあり排便コントロールを行うことができた。また、便座に座って頂くことで、その爽快感や喜びを味わってもらえたと思う。2人介助でトイレでの排泄を行うこともしばしばだった。</p> <p>② 漏れや不快な思いをしないためにも個々の排泄アセスメントを行い、パットの選定やパットの当て方、介助方法など様々な角度からアプローチし、常にその人にあった最善の方法を話し合いながら決めていけるように努めてきた。</p> <p>③ 排泄介助内訳 トイレ介助者：5人、オムツ交換者：3人 オムツ使用者からトイレ介助へ移行人数：1人</p>



1. 家目標と方針について

- (1) 入居者の声にしっかり傾聴、個々を尊重し、それらに沿ったケアを提供する難しさは、日々、心身の状態等が変化して行く中で、正直、適切な対応ができたかは疑問でもあった。
- (2) 相手を理解し、柔軟なケアは状況により対応できたこともあったが、どうしても従来の固定概念にとらわれたケア内容となってしまった。今後、もっと柔軟性を身につけるように努めていきたい。
- (3) 円滑に安全なケアを遂行するため「報、連、相」の徹底と、多職種間との情報共有を図るについては、業務に追われていたことを理由に申し送りが出来ていないこともあった。命を預かっている立場から、漏れない申し送りを徹底していきたい。
- (4) 家庭との延長で生活が継続できるよう、食事の席替えや適した車椅子の選定。また、ベッドで休む時間と離床時間等の生活パターンに配慮。過ごし易い環境を提供してきた。
- (5) 職員間で積極的に意見交換を行い、気づく力を持ち、安全な生活が送れるようヒヤリハットを多く上げて行くことで、アクシデントが減った。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数



入居者数	8人	最高齢者	97歳	平均年齢	91歳
------	----	------	-----	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	3人	3人	4.1

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 感染症予防のため交流制限をしていたなかで、家内では機能低下防止に向けたのレクリエーションを行い機能維持が保たれ笑顔も引き出せた。また、個々で出来る編み物や塗り絵、計算問題、間違い探し、カレンダー作成等も推奨してきた。 ② 天気の良い日は、声掛けにより日光浴や散歩を楽しみ、悪天気の日には家内からホールまで散歩しリハビリを兼ねてきた。 ③ 褥瘡を予防するため、体位交換の時間を増やすと共にムートンやクッション等を活用することで予防に努めてきた。 ④ 血行不良が見られた場合は、その都度、状況に合わせて電気毛布や湯たんぽなどで対応してきた。 ⑤ 面会状況 延べ人数：58人（面会最多者 15回）
(2)食事	<ul style="list-style-type: none"> ① 個々に合わせた食事提供をしてきたが、その日その日で状態が変化するため、この食事内容で本当に良いのか、嚥下は大丈夫なのか等、その対応が大変であると共に、食事介助がいかにか大事かということを再認識しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水分の進みが悪い方には、嗜好を聞きながら進めるよう努めてきた。 ・ 豆乳や牛乳を飲まない方に、ココアに入れて飲んでもらうなど工夫してきた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目覚めた時に合わせ食事を提供することに努めてきた。 ・ キザミ食と軟飯のハーフをお願いし、配膳の見た目などの改善に取り組み、楽しんで食事ができるよう努めてきた。 ・ 常に多職種と情報共有に努め、個々の食事提供にあたることができた。 ・ 誕生日ケーキは食べたいケーキを提供。特にぼた餅ケーキは大変喜ばれていた。 ・ 一部介助の方に対しては、声掛けにより自力摂取できるよう努めてきた。 ・ 器は個々の状態により、陶器から持ち易くすくい易いプラスチック製に変更。 ・ 食事前に座位を整え、声を出して口腔体操を行うよう努めてきた。また、声を出すことが難しい方に頬マッサージ行ってきた。 <p>② 食事形態状況 常食 1 人、軟食 1 人、キザミ食 1 人、キザミ食+軟飯ハーフ 2 人、補助食品（ゼリー食）2 人、経管栄養 1 人</p> <p>食事介助者 全介助 3 人、一部介助 1 人</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>
(3)入浴	<p>① 入浴時だけではなく、冬季は乾燥肌になり易いため、就寝や起床時にも皮膚の保湿に努めてきた。</p> <p>② 体調に合わせて柔軟に入浴方法を変更することに努めてきた。</p> <p>③ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴 554 回、機械浴 222 回）</p>
(4)排泄	<p>① 快適な排便を促すため、看護師の協力を得、下剤のコントロール等を行い、6 名の方がトイレで排便を行えた。（排便時間を逆算し、なるべく同じ時間帯に排便が出るよう努めてきた。）</p> <p>② 排泄介助内訳 トイレ介助者 3 人、トイレ 2 人介助者 2 人、オムツ交換者 3 人</p> <p>③ 排便コントロールは難しいため、常に看護師と相談をしながら行ってきた。</p> <p>④ 換気のため、空気の入替えや消臭スプレーの使用、毎日の衣類交換、洗濯をしていたが、効果が薄かった所は再度検討して行く。</p>
(5)認知症ケア	<p>① その状態や状況に応じ、伝え方を工夫しても困難な場合があり、改めて信頼関係を築くことは大変だと感じた。</p> <p>② 本人の意見を聞きながら、その日の状態に合わせて過ごす場所を提供することができた。</p> <p>③ 認知能力が低下してきても、自尊心を傷つけない対応に努めてきた。</p>

1. 家目標と方針について

- (1) “食べること”に着眼。美味しく食べ楽しい時間を過ごすことを目標に、目の前での配膳やメニューの説明、嗜好品等の確認を行ってきた結果、美味しく頂けていることと思います。また、このように多くの会話の機会を持つことがコミュニケーションを図る上でも重要なことでした。
- (2) 一人ひとりの生活リズムに応じ、居室やフロア間で自由に過ごせる環境づくり（炬燵やソファの設置、個人スペースの確保）に努めてきました。
- (3) 新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、対面での面会が可能となり、多くの方に足を運んで頂き、楽しい時間を過ごして頂くことができたのではないかと思います。また、次年度は従来のように外出の機会を多く持てればと思っています。
- (4) 家としての特色を大事にするにあたり、介護やそれ以外に関しても“なぜ・どうして”それが必要なのかを知ったうえで仕事ができれば、より良い家づくりが出来るものと感じました。

2. 入居者状況 (R6.3.31 現在)

① 人数

入居者数	7人	最高齢者	102歳	平均年齢	90歳
------	----	------	------	------	-----

② 要介護度と内訳

要介護度	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
人数	2人	5人	0人	3.7

③ 認知については、軽度が2人、中度～重度5人。

3. 具体的内容

(1)生活	<ul style="list-style-type: none"> ① 1名の方の看取りに携わり、改めて人生のターミナルケアの難しさや大切さを学びました。(職員一人ひとりが、自分には何が出来るかを考え、行動に移すことが出来ていたように思います。) ② 申し送りをする側、される側、お互いに分からないと言えないよう自ら情報を得、確認した上でケアにあたってきました。 ③ 感染症予防のため、家族参加による誕生会を行うことが出来なかったが、本人希望のケーキを提供、また、家料理を兼ねた職員手作りのぼた餅ケーキなどで、楽しい思い出づくりができたのではないかと思います。 ④ 穏やかな口調で話しかけることに心掛けてきましたが、介護側に余裕がなくなると、早口やきつい口調になってしまうことが見受けられたため、互いに注意しながら、どんな時でも穏やかに話すよう意識付けをしてきました。 ⑤ 絵本を読んだり、金魚の泳ぐ姿やテレビを観たり、花を楽しんだりとその寛ぐ場を設けてきました。 ⑥ ユニット内や居室の整理整頓、清潔保持、消臭対策に取り組み、臭いのない家に心掛けてきました。 ⑦ 面会状況 延べ人数：54人(面会最多者12回)
-------	--

<p>(2)食事</p>	<p>① 昨年に引き続き、目の前での配膳に心掛け献立の説明を行いながら嗜好を確認。いつも残してしまう物については、配膳の位置や順番を変えることで、摂取できるようにしてきました。</p> <p>② 五感で楽しめるよう、メニューに合った食器の選定や盛り付けに工夫し、また、安全に食事が出来るよう、本人に合ったテーブルの高さや食べ易い体位に注意してきました。</p> <p>③ 義歯の劣化に気付かず、食事中に破損し誤嚥の危険性があったため、食形態の見直しや、観察の強化も行ってきました。</p> <p>④ ティータイムの飲み物に関しても、個人嗜好を聞いた上で提供（冷たいものが良いのか、温かいのが良いのか、甘い物が欲しいのかなど）。また、会話をする機会が増えたことは、お互いを知る上で有効なものとなりました。</p> <p>⑤ 食事形態状況 軟食5人、超キザミ食1人、ゼリー食1人 食事介助者 全介助1人、一部介助1人</p>
<p>(3)入浴</p>	<p>① 入浴日でも気分が乗らない場合は無理せず曜日の変更を行い、嫌な思いが残らないよう対応することができました。</p> <p>② 好みの湯加減や入浴時間などを確かめた上、入浴介助や羞恥心に配慮した対応ができていました。</p> <p>③ 体調変化時には介護用品や入浴形態を見直し、また、2人対応での介助を行うことで、双方の負担軽減にも繋がってきました。</p> <p>④ 個々に合った入浴剤やボディクリーム等で保湿に心掛け、皮膚トラブルに発展しないよう取り組むことができました。また、入浴時に異常を発見した場合、直ぐに看護師への報告、申し送りも徹底してきました。</p> <p>⑤ 季節を感じられるよう年2回の菖蒲湯、ゆず湯を提供することができ、皆さんに喜んで頂けたと思います。</p> <p>⑥ 年間入浴者数（延べ回数：個別浴624回、機械浴208回）</p>
<p>(4)排泄</p>	<p>① 職員間の申し送りや、看護師の指示のもと下剤の調整、食物繊維やオリーブオイルを用いることでスムーズな排便コントロールに努めてきました。また、立位が難しい方についても可能な限り一日一回は便座に座って頂くことにより、排尿や排便で得られる爽快感を実感できたことと思います。</p> <p>② 羞恥心への配慮に心掛け、また、声の掛け方や排泄チェック表を活用することでスムーズなトイレ介助や排泄交換に繋がられた。漏れなどが生じた場合、どのように漏れてしまったのかを検証し、パットの選定や時間帯の見直しを適宜に行ってきました。</p> <p>③ 消臭対策については、職員同士が互いに気付くことにより防げました。</p> <p>④ 排泄介助内訳 トイレ一部介助者：3人 一日平均8回 トイレ全介助者：2人 一日平均3～4回（トイレ）、他2回（ベット上） 2人対応でのトイレ介助者：1人 一日1回、他5回（ベット上） ベッド上での交換者：1人 1日5回程度 オムツ使用者からトイレ一部介助へ移行人数：1人</p>

